

令和3年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート (10月中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	コロナ禍のため、全校で行う集会や地域の方を招くことは難しいが、感染レベルが下がった時期に、全校で活動したり、クラブ活動や授業で、地域の方を講師として呼び出したりすることができた。また、他学年との交流の機会を増やし、活動することができた。後期は、感染レベルを見ながら、さらに他学年との交流や、学級内活動を工夫し、協働的学びを大切にし、意欲や達成感が持てるようにしていきたい。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
	1	支え合う学級づくり	学級活動を工夫し、友と考え合ったり一緒に活動したりする場づくりができた。職員研修でQ-U検査の結果を共有し、児童理解につなげることができた。	B	Q-Uの結果から見える子ども達の内面を分析し、学級経営に生かす。授業や学級活動では、達成感や充実感が味わえたり、自分の頑張りや友達のよさに目を向けたりすることができるような活動を大切にしていく。
	2	学び合う授業づくり	学習に取り組む基本的な姿勢は身につけてきている。単元や1時間ごとの授業のねらいが達成できているか振り返りがあまりできていない。	A	子ども達が学習のねらいに到達できたか、必ず振り返りを行い、授業の展開や手立ての見直しにつなげていく。
3	高め合う活動づくり	コロナ禍で地域の方と関わる機会は少なかった。異学年が連携して行事の準備や練習をすることは積極的にできた。	B	コロナ禍でも他学年や地域の人と関わりが持てる方法を考えていく。子ども同士が高めあえる支援や手立てを考えて取り組む。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子どもを増やせたか。	登校時の検温や児童会活動のあいさつ運動で、職員や代表委員から挨拶を行っているが、多くの子どもが元気に挨拶を返すことができた。	B	児童会のあいさつ運動を継続し、職員から積極的に挨拶を行う。地域の方と連携して子ども達を見守る体制づくりを進める。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めることができたか。	各学級で、学級活動や学習での子ども達同士の関わり方を工夫しながら、互いを認めあう学級づくりに努めてきた。	B	学習活動後の振り返りを大切にし、クロムブック等も活用しながら、友の考えや思いから学んだり、お互いの学びの成果を共有したりすることを大切にしていきたい。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	個別の支援計画を立てたり、Q-U検査の結果を職員研修で分析したりして、共有しながら、各学年の学級経営を振り返ることができた。	B	検査の結果を生かして、児童一人一人の内面理解に努め、チームで支援の手立てを検討し、個に応じた支援にあたっていく。

学び合う授業	共に学びあうための構えをつくる	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	授業では、友や先生の話最後まで聞くことや、大きな声で返事をするなどの学習ルールが多くの児童に身につけてきている。	A	個で学習を進めていく場面と全体指導のメリハリをつけ、人の話を聞く時は、相手を見て聞くことを大切にする。	
	自律して学ぶ力づくり	「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	「つむぐ」の記入時間を学級で位置づけ、担任が家庭学習や日記に目を通した。家庭学習への取り組みは、よく定着している。	A	自分の力を伸ばす家庭学習になるように、課題の内容ややり方を工夫していく。	
	「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	1時間のねらいにせまるための授業づくりを意識して取り組んできた。また、ICT機器を活用した授業づくりに取り組んできた。	B	授業の振り返りを行い、授業改善や個への支援につなげていく。考えを共有したり深めたりする場面でのICT機器の活用をさらに研究していく。(研究の重点)	
	高め合う活動	自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	授業や清掃、学級活動、児童会で、個に応じた役割や目標に向かって取り組む姿を支援してきた。	B	自主的な取り組みを支援するため、教師による個への支援と、友との協働的な取り組みを大切にしていく。
		児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。	ホタルの幼虫採集や、交通安全教室での歩行練習、運動会練習、毎日の休み時間などに、なかよし学級や連学年で交流してきた。	A	学年を越えて、子ども達が授業や行事の準備・運営でともに力を合わせて活動できる場を継続して大事にしていく。
		地域との学び	地域資源(人材・題材等)を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	クラブ活動や出前授業、米作り、大豆栽培などで、地域の方や企業の方の力をお借りして活動を行った。	B	全校や各学年で行う今後の学習を充実させるために、コロナ禍で実現できる地域との学びの形を考え取り入れていく。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	毎月、HPの記事を更新し、学校生活の様子を発信してきた。また、新型コロナウイルス対策について、学校の取り組みや体制を、HPやプリント等で発信した。	B	当面はHPや学校だよりで学校の取り組みを発信していく。感染レベルを見ながら、保護者や地域の方に来校してもらえる機会をつくる。
		PTAや地域の方々との連携	PTAや地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	運動会では、PTA役員さんの協力を得ながら、感染対策を講じて実施した。授業参観については、感染レベルに応じた対策を講じながら実施した。	A	運動会での試みを生かし、今後の学校行事でもPTAと連携してできるだけ実施していきたい。また、ICT機器を生かして、相互に情報発信を行えるようにしていきたい。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった